

Vol.19(2021) No.22(10/28)L02

重症 COVID-19 患者におけるバリシチニブ+レムデシビル+デキサメタゾン併用療法の臨床的影響

[Clinical impact of combination therapy with baricitinib, remdesivir, and dexamethasone in patients with severe COVID-19](#)

Izumo T, Kuse N, Awano N, et al.

【Respir Investig. 2021 Aug 10:S2212-5345(21)00125-8】-peer reviewed (査読済み)

(要旨)

◇背景

COVID-19は世界中で蔓延しており、日本においても重要な疾患となっている。そのため、重症化したCOVID-19に対して最適な治療戦略を緊急に確立する必要がある。バリシチニブ(ヤヌスキナーゼ阻害薬)+レムデシビル+デキサメタゾン併用(BRD)療法の効果は未だ明らかではない。

◇方法

本研究には、日本赤十字社医療センターでバリシチニブ+レムデシビル+デキサメタゾン併用(BRD)療法を受けた患者が登録された。全患者は、バリシチニブ(14日以下)、レムデシビル(10日以下)、デキサメタゾン(10日以下)の投与を受けた。有効性と有害事象を評価した。

◇結果

本研究には、重症のCOVID-19患者計44人が登録された。28日死亡率は2.3%(1/44人)と低かった。侵襲的人工呼吸の必要性はほとんどの患者で回避された(90%, 17/19人)。BRD療法を受けた患者の入院期間は11日、回復までの期間は9日、集中治療室での滞在期間は6日、侵襲的人工呼吸使用期間は5日、酸素補給療法の使用期間は5日であった(すべて中央値)。有害事象は15人(34%)で発生した。内訳は、肝機能障害(全患者の11%)、血栓症(同11%)、腸腰筋血腫(同2%)、腎機能障害(同2%)、人工呼吸関連肺炎(同2%)、感染性心内膜炎(同2%)、帯状疱疹(同2%)であった。

◇結論

BRD併用療法は、重症COVID-19の治療に有効であり、有害事象の発生率は低かった。本研究の結果は有望であるが、さらなる無作為化臨床試験が必要である。